

学校の取組発表

日本語指導が必要な児童生徒に対する支援のための校内連携

【主な発表の内容】

- (1) 旭中学校紹介 スタッフ、生徒数
- (2) 国際教室の紹介
 - ・保護者会（各学年の懇談会内容を通訳付きで説明）
 - ・教育相談（通訳で保護者と担任をつなぐ）
- (3) 国際教室の取り組み
 - ・取り出し指導、入り込み指導
 - …教科担当との連携、共有ドライブを活用した支援内容の引き継ぎ
 - ・授業のポイント…母語支援、日本語での聞き直し、やさしい日本語（日本語指導）への言い換え、タブレットを活用した翻訳
- (4) 校内連携
 - ・国際教室部会…校長、教頭、国際教室担当、日本語指導員（月1回開催）特別支援担当 参加
 - ・進路指導…進路説明会、面接練習等の実施
- (5) 校内連携のさらなる充実に向けて今後取り組むこと
 - ・外国人生徒の動向把握の重要性
 - ・国際教室担当と各学年の支援の方向性のすり合わせ
 - ・どの職員が担当しても充実した支援ができるような体制整備
 - ・関係する職員と情報共有する十分な時間の確保 等

※詳細は、発表資料を参照



【協議テーマ】 日本語指導が必要な児童生徒に対する支援のための校内連携



< 班別協議で出されたキーワード >

- ・つなげる
- ・関わる人の確保
- ・人員確保と教師間の理解
- ・指導内容、方法の共有
- ・調整の場
- ・情報共有
- ・フットワーク
- ・職員間の日々の連携とICTの積極活用
- ・きめ細かな対応
- ・共有ドライブの活用（引き継ぎ）
- ・人と人との情報共有
- ・担当1人でなく、チームで対応
- ・子供たちの自立を促すために、全校の支援体制が大切

< 参加者の感想より（取組発表含む） >

- ・「フットワーク」「情報共有」「役割分担」等、大切なキーワードだと思います。「ハーモニー」を活用します。
- ・実践報告で他市町村の成果や課題が知れたのがよかったです。班別協議も含め参考になりました。
- ・集住地域と散在地域で共有している課題や成果があるということが分かりました。
- ・日本語教室ではどのような教材を使っているか、各校の事例が知りたいです。

まとめ

校内連携を
進めるに当たり...

①職員間の情報共有（月1回開催している国際教育部会の有効性）

- ・支援の方針を定めるだけでなく、その支援が効果的に進むよう、役割分担を明確にする場になる

②教科担当と連携した学習指導（日本語指導）

- ・教科学習を意識した日本語指導
- ・ICTを活用した支援内容引き継ぎの工夫

③保護者や行政（市町村教育委員会等）との連携

情報共有と組織的な対応の重要性